

シラバス参照

科目名	協創力体験演習Ⅰ
配当年次	1年次
開講期間	春学期集中
単位数	1
担当教員	上田 秀雄(ウエダ ヒデオ)
期間・曜日・時限・教室	春学期集中 その他 その他 その他

※	本科目は、大学および学部もしくは学科のディプロマポリシーの1と2の達成に必要な科目です。
授業の目的・目標	①授業の概要:この授業は、本学の建学の精神である「学問による人間形成」の基礎となる責任感、状況認識力、課題発見力を身につけ、協創力の要素である交流力を高めるための科目です。 ②授業の目的:「協創力」という高校時代には耳慣れない力を高めるという課題に対して、議論するなど、能動的に取り組むことで、“協創”を体験し、相互理解・相互尊重の態度や課題解決の能力を身につけることを目的としています。 ③修得できる力:グループで学ぶことにより、倫理観、責任感、状況認識力、課題発見力、交流力、相互理解・相互尊重の態度、協創力が身につきます。(汎用的技能、態度・志向性) ④授業の到達目標:心理的に安全な環境を意識しながら多様な学生たちと交流し、対話しながらチーム活動を行っていくために必要なことを体験し、自らの行動に生かせるようになることを目標とします。 ⑤実務経験と授業内容との関連:なし
準備学習等の指示	第6回までは集中講義として実施しますが、体験的に学んだ内容を日常の大学生活で実践するための期間を設けます。日常生活での実践、協創に必要なことの調査、協創力体験演習Ⅰを履修している学生との意見交換など、教室で取り組む時間以外に28時間程度の自主学習時間が必要です。日常生活の中で、対話、コミュニケーション、協創を意識するよう心掛けてください。
講義スケジュール	■第1回 【テーマ】心理的に安全な空間を体験する1 【目的】協創力を身につける前提としての「場」をみんなで作り上げることができるようになる。 【到達目標】安心して意見交換し、学ぶことができる環境を作ることができる。 【準備学習】 【特記事項】学長メッセージ、心理的安全性に関する講義、グループ活動を円滑に進められるようにするためのアクティビティを行う。 ■第2回 【テーマ】心理的に安全な空間を体験する2 【目的】大学を知り、愛校心を養うとともに、学びの場での安心感を高める。 【到達目標】大学に対する帰属意識をもつ。 【準備学習】 【特記事項】さまざまな資料等を通じて大学の歴史、キャンパスの特徴、卒業生や現役学生の活躍を知り、かるた作りなどを通じて城西生としての意識向上を図ります。 ■第3回 【テーマ】協創的関係の基礎となる多様性を学ぶ1 【目的】感じ方・とらえ方・行動のしかたの多様性を理解する。 【到達目標】グループやクラスには、多様な感じ方・とらえ方の学生たちがいることを体験を通して理解する。 【準備学習】 【特記事項】多様性を感じることができる複数のアクティビティを行う。 ■第4回 【テーマ】協創的関係の基礎となる多様性を学ぶ2 【目的】多様な人たちの集まることで、大きな力になることを理解する。 【到達目標】個性の異なる多様なメンバーが集まることで、一人ではできないことが達成できることを、アクティビティを通して体験的に理解する。 【準備学習】 【特記事項】個人の気づきと集団での気づきの違いが明確にわかるようなアクティビティを行う。 ■第5回 【テーマ】協創のためのスキルを学ぶ1 【目的】心理的に安全な空間と多様性の理解に基づいて、グループで活動できるようになる。 【到達目標】グループとして活動する際の対話やコミュニケーションで求められる要素を理解できる。 【準備学習】 【特記事項】対話やコミュニケーションに関する基本的な事柄を講義し、その内容を体験するアクティビティを行う。 ■第6回 【テーマ】協創のためのスキルを学ぶ2 【目的】グループ活動を通じて、協創のためにメンバーが果たすべき役割について理解する。 【到達目標】個々人が協創するためにグループに何ができるのかということを考えられるようになる。 【準備学習】 【特記事項】グループメンバーが役割を果たすことで成し遂げることが可能なアクティビティを行い、グループ活動とメンバーが果たした役割を振り返る。 ■第7回 【テーマ】学びのまとめ 【目的】協創に対する各自のとらえ方をまとめる。 【到達目標】6回を通じて学んできた内容について振り返り、自分が協創力をどのようにとらえ、また自分のものにしたいのかの評価ができるようになる。

	【準備学習】 【特記事項】6回の授業で学んだ協創に必要な要素を日常の大学生活で実践するための期間を設けたうえでオンデマンド授業として実施し、日常生活を振り返りながら協創に対する各自のとらえ方をまとめます。
教科書	指定しない
参考文献	
授業の方法	この講義は主として、 ・講義 ・演習 形式で行います。 授業方法として下記のアクティブラーニングの手法を実践します。原則的に、各回で総論的な講義で学んだあとに、各クラスにおいて、具体的な実践を通して学びます。 ・PBL ・ディスカッション・ディベート ・ICTを利用した授業内レスポンスの活用(クリッカー等) ・グループワーク ・プレゼンテーション 【フィードバック方法】なお、小テスト・課題等については、 ・各授業回で全体(グループ)にフィードバックを実施する 原則的に皆さんの学修成果については各回でワークシートを提出していただき、フィードバックは全体に対して行います。 学生のオンラインなどを含めた学修をサポートするため、下記のLMSを使用します。 ・WebClass なお、基本対面で実施しますが、紀尾井町キャンパスの学生が参加する場合には、ハイフレックス型でオンライン併用で実施します。第7回の授業はオンデマンド型の授業として実施します。
成績評価方法	【評価割合】【評価基準】各回の授業において課せられたワークシート内容及び提出状況に基づいて、本講義の目的に達成したかを判定し、適合した場合は単位を認定します。
オフィスアワー	
居室	
ホームページ	
その他特記事項	
添付ファイル	